

(別紙1)

論文の内容の要旨

論文題目 シュライアマハーの解釈学—方法概念の歴史的系譜に即して—

氏名 桑原 俊介

本論稿は、シュライアマハー解釈学を、各種方法概念の歴史的系譜に即して検討することで、その歴史的な独自性を見極めることを目的とするものである。

その方法は、概念史の方法を採る。その理由は、第一に、そもそもシュライアマハー解釈学において使用される方法概念の多くが、彼独自のものではなく、先行する解釈学あるいはそれ以外の学問分野に実際的な系譜を有する概念であるからであり、第二に、かかる個別的な方法概念の歴史的系譜に即して個々の方法概念の歴史的な連続性・非連続性を精確に見極めることを通じてこそ、初めて、それぞれの論者による解釈学をそれぞれ全体として比較してきた従来型の方法によっては見えてこなかったシュライアマハー解釈学の歴史的独自性が、より精確かつより高い精度で析出されうるようになると考えたからである。いうなれば、この方法は、解釈学の歴史を、それぞれの理論家に即して横に切り分けるのではなく、個々の方法概念に即して縦に切り分ける方法であるといえる。

かかる目的および方法の下で、本論稿では、八つの方法概念（あるいはそれに準ずる概念や論点）を選択し、それぞれの概念の歴史的系譜を、各章において個別的に検討した上で、最後に「結」として、シュライアマハー解釈学の全体としての独自性を総合的に判断することを試みる。それにより、従来型の研究におけるシュライアマハー解釈学の主たる特徴づけ、すなわち「ロマン主義的解釈学」としての、「哲学的解釈学」としての、「言語学的解釈学」としての特徴づけが再検証に付されることになる。

(別紙1)

論文の内容の要旨

論文題目 シュライアマハーの解釈学—方法概念の歴史的系譜に即して—

氏 名 桑原 俊介

本論稿は、シュライアマハー解釈学を、各種方法概念の歴史的系譜に即して検討することで、その歴史的な独自性を見極めることを目的とするものである。

その方法は、概念史の方法を採る。その理由は、第一に、そもそもシュライアマハー解釈学において使用される方法概念の多くが、彼独自のものではなく、先行する解釈学あるいはそれ以外の学問分野に実際的な系譜を有する概念であるからであり、第二に、かかる個別的な方法概念の歴史的系譜に即して個々の方法概念の歴史的な連続性・非連続性を精確に見極めることを通じてこそ、初めて、それぞれの論者による解釈学をそれぞれ全体として比較してきた従来型の方法によっては見えてこなかったシュライアマハー解釈学の歴史的独自性が、より精確かつより高い精度で析出されうるようになると考えたからである。いうなれば、この方法は、解釈学の歴史を、それぞれの理論家に即して横に切り分けるのではなく、個々の方法概念に即して縦に切り分ける方法であるといえる。

かかる目的および方法の下で、本論稿では、八つの方法概念（あるいはそれに準ずる概念や論点）を選択し、それぞれの概念の歴史的系譜を、各章において個別的に検討した上で、最後に「結」として、シュライアマハー解釈学の全体としての独自性を総合的に判断することを試みる。それにより、従来型の研究におけるシュライアマハー解釈学の主たる特徴づけ、すなわち「ロマン主義的解釈学」としての、「哲学的解釈学」としての、「言語学的解釈学」としての特徴づけが再検証に付されることになる。

(別紙1)

論文の内容の要旨

論文題目 シュライアマハーの解釈学—方法概念の歴史的系譜に即して—

氏名 桑原 俊介

本論稿は、シュライアマハー解釈学を、各種方法概念の歴史的系譜に即して検討することで、その歴史的な独自性を見極めることを目的とするものである。

その方法は、概念史の方法を採る。その理由は、第一に、そもそもシュライアマハー解釈学において使用される方法概念の多くが、彼独自のものではなく、先行する解釈学あるいはそれ以外の学問分野に実際的な系譜を有する概念であるからであり、第二に、かかる個別的な方法概念の歴史的系譜に即して個々の方法概念の歴史的な連続性・非連続性を精確に見極めることを通じてこそ、初めて、それぞれの論者による解釈学をそれぞれ全体として比較してきた従来型の方法によっては見えてこなかったシュライアマハー解釈学の歴史的独自性が、より精確かつより高い精度で析出されうるようになると考えたからである。いうなれば、この方法は、解釈学の歴史を、それぞれの理論家に即して横に切り分けるのではなく、個々の方法概念に即して縦に切り分ける方法であるといえる。

かかる目的および方法の下で、本論稿では、八つの方法概念（あるいはそれに準ずる概念や論点）を選択し、それぞれの概念の歴史的系譜を、各章において個別的に検討した上で、最後に「結」として、シュライアマハー解釈学の全体としての独自性を総合的に判断することを試みる。それにより、従来型の研究におけるシュライアマハー解釈学の主たる特徴づけ、すなわち「ロマン主義的解釈学」としての、「哲学的解釈学」としての、「言語学的解釈学」としての特徴づけが再検証に付されることになる。